

新学校点描

校長室にもうすでに3匹のカメムシが入ってきました。今年は大雪なのかなあと思ってしまいます。

《K中学校》

NO.11 R3. 10. 21

担当：校長

前期終業式の翌日、10月2日（土）に、地区新人大会陸上競技が開催されました。2年生と1年生から選抜された選手が一生懸命力を尽くしてくれました。新人大会前期大会の後からすぐに、休日練習や朝練習を計画し、先生方もボランティアで指導してくれました。その成果でしょうか、男子総合2位、女子総合3位、男女総合は惜しくも4位になりました。ひとり一人の頑張りを称えます。入賞者は次の通りです。女子1年100m第2位 K・Kさん、女子2年100m第4位 S・Mさん、女子共通200m第6位 S・Hさん、女子共通800m第4位 T・Aさん、女子共通1500m第4位 T・Aさん、女子共通400mリレー第8位（S・Hさん-S・Mさん-H・Sさん-K・Kさん）、女子共通走り幅跳第1位 S・Hさん、女子共通走り高跳第5位 K・Aさん、女子共通砲丸投げ第3位 M・Rさん、男子2年100m第2位 U・Rさん、男子共通200m第7位 H・Kさん、男子共通800m第4位 K・Jさん、男子共通3000m第5位 Y・Kさん、同第7位 K・Jさん、男子共通400mリレー第4位（H・Kさん-U・Rさん-K・Jさん-S・Rさん）、男子共通走り幅跳第3位 S・Rさん、男子共通走り高跳第7位 N・Tさん、男子共通砲丸投げ第3位 H・Rさん、同第4位 K・Eさん。おめでとうございます。

13日（水）は、3年生のK山学の発表会でした。数名の保護者の方と1、2年の生徒たちが先輩である3年生の発表を聞きます。K・Sさんは、「町にラジオ局を設置してラジオ放送を流したら」というアイデアを発表していました。でも、調べていくうちにラジオ局の開局には法律上の問題や資金が必要なることを知り、現実的に可能にするためには地元のスーパーの店内放送を使うことで解決できるという内容でした。最初のアイデアから探求していった結果、別の方策にたどり着いた、まさに金山学の学びが表れています。後輩も一生懸命聞いています。2年生のS・Tさんは「質問したくても隙が見当たらないです。」なんてこぼしています。

わたしが語りた余白の部分

さて、今日は“名画”と呼ばれる1枚の絵を見て、わたしの話を少し聞いてください。

鑑賞してもらいたい“名画”とはこの右の絵です。

題名は『花束を持つ手』です。見たまんまです。

プリントの絵は白黒ですが、本物はカラーなのです。

まずは、絵をみて感じたこと、気づいたことを考えてください。どんな小さなことでもいいです。睨むようによーく見て、見たまま、感じたまま、この絵からわかることを考えてください。時間は2分間です。

“名画”と言ったのに、子どもの絵みたいと思った人もいるでしょう。それも一理あります。

他に、気になったりしたことは何でしょうか？

花びらがお日様みたい、太陽のような花と感じた人がいるかもしれません。お花屋で売っている花とはなんか違っている感じがします。ではどこから摘んできたのでしょうか。

この絵で注目するのは、やはり2つの手です。気づきましたか？



一人で、このような持ち方をすると、手がひっくり返っちゃいます。同じように持てませんね。とすると、どういうことかわかりますか。

当然、登場人物は、二人だということです。じゃあ、誰が誰に花束を渡しているのか？

この絵を見てわかるのはここまでです。ただ、残っている情報として、書いた人のサインがあります。その人が生きた時代などの情報を知れば、何かわかるかもしれません。

サインの解読は難しいようですので、説明しましょう。この人の名前は、『ピカソ』です。知っている人もいるでしょう。美術の教科書にも書いてあります。第二次世界大戦の最中に生きた画家です。自分の生まれ故郷のスペインのゲルニカという町がナチスドイツに無差別爆撃されたとき描いたのが有名なゲルニカという絵です。

じゃあ、知り得た情報からこの絵の描かれていない余白の部分について、様々なことを想像してみましょう。

2年生のS・Rさん：「花は子どもを表しています。左側の戦争する国から平和な国である右側に子どもを送り届けている様子です。」

1年生のA・Aさん：「左側の方は丸みを帯びた感じの手、右側の方は細くて骨格がはつきり出ている手なので、戦争などで苦しむ人に救いの手をさしのべている感じを表しています」

2年生のO・Sさん：「戦争を終えた後に兵隊の人が何も食べることができず、やせ細ってしまった人に少しでも元気や勇気をあげたくて、そこに咲いていた花を渡したのです。」

3年生T・Nさん：「子どもが『銃なんか持たずに花束を持って』と言って渡しています。」

1枚の絵でも、興味をもって見つめる人と、まったく無関心に見る人とは、頭の中で思い描く姿はこんなに違うのです。どんなことにも自分なりの気づきを持つことが、自分を自由な世界につれていきます。後期は、総合学習で学んだことを発表する場「K山学」もあります。余白を想像する。これは間違いなく学力と関係しています。

ある生徒はこんな感想を書きました。

「わたしには、大きな草原に立っていた男性の兵士が銃を地面に置いて、一人の女の子から花束を受け取っている光景が見えてきました。」と。

それから数週間後に行われたChoice Studyの日。2年生のK・Kさんが、「星の王子様」の読書感想画を描いていました。わたしが「上手だね」と言って、「たしか、キツネが王子に話す場面あったよね？」と尋ねます。すると、「ここでしょ」と言って一瞬でそのページを開いて、わたしに見せてくれます。そこには、「心でみなくちゃ、よく見えない。本当のなかみは、目では見えないってことさ。」と書いてあるのでした。

語りたかった余白の部分を、軽々見透かす中学生。そんな小さな瞬間の中に、なんとも言えない喜びがわき上がります。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。

※この『花束を持つ手』と題された絵画は、第二次世界大戦終結後、初めてユネスコで国際平和会議が開かれたときに作成された絵です。